

令和4年度第1回三条市教育事務点検評価委員会会議録

- 1 開会宣言 令和4年7月4日（月） 午後1時30分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎 201 会議室
- 3 出席者 雲尾委員長、星野委員
- 4 欠席者 目黒委員
- 5 説明のための出席者
長谷川教育長、栗林教育部長、野水教育総務課長、平岡子育て支援課長、
熊倉学校教育課長、星教育センター長、坂井教育総務課課長補佐、
佐藤教育総務課庶務係長
- 6 傍聴人 1人
- 7 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 自己紹介
 - (4) 議事
 - ア 教育に関する事務の点検及び評価について
 - イ 令和3年度教育に関する事務の事後評価シートについて
 - (5) 次回教育事務点検評価委員会の日程について
 - (6) 閉会
- 8 会議の経過及び結果
 - (4) 議事
 - ア 教育に関する事務の点検及び評価について
 - ・野水教育総務課長が説明
(雲尾委員長)
ただいまの御説明につきまして御質問等はございますでしょうか。
特になければ、次に進みます。

イ 令和3年度教育に関する事務の事後評価シートについて

- ・学校教育課所管分について、熊倉学校教育課長、星教育センター長が説明
(雲尾委員長)

では、学校教育課所管分につきまして御質問、御意見等お願いいたしたいと思えます。

ではまず、1—(1)「学校運営改善システムの構築」についてお願いします。

(星野委員)

3点お願いいたします。

1点目は表記のことですが、1ページの今後の方針のところの2行目です。昨年度もあったんですが、「オーダーメイド訪問」という言葉について、もし可能であれば学校訪問なんだということを記載してもよいのかなと思いますし、指標との関連でこの言葉がどういう脈絡で出てきたのかなというところがちょっと分からなかったなので、その辺の記載を少し工夫されるとよいかなと思いました。

2点目は、今後の推進方法のところ、令和4年度、校務支援システムは大きな更新を予定しているということで、6月以降実施されるというお話でした。その辺について、具体的な内容は別としても、機能面で更なるパワーアップというか、システムアップするとか、そんな文言はあってもよいのかなと思いました。

最後、3点目ですが、表記の問題ですが、1ページ、2ページにございます「三条市授業スタンダード」という文言の付記として、括弧書きで5つのポイントを押さえた授業モデルとありますが、1ページと2ページの「おさえた(押・抑)」という漢字が違うので、確認していただければと思います。

(熊倉学校教育課長)

1点目のオーダーメイド訪問の説明につきましては、付記をつけることが必要だと思いますので、対応させていただきたいと思います。

2点目ですが、校務支援システムの大きな更新についてなんですけれども、どうしてもスピードが遅いということで、ずっと以前から御指摘をいただいていたところで、それについては少しずつ改善をしてきたところではありますけれども、このたびメールや掲示板の機能と成績処理、成績関係の機能を、別々の扱いにすることで、動作が速まるとのことですので、動作のスピードアップということが分かるような表記をしたいというふうに思います。

3点目、「押さえた」ということにつきましては、第一指標の字が間違えておりますので、訂正をしたいと思います。

(雲尾委員長)

同じように言葉で言うと1ページ、総合評価の中にあるヘルプデスクというのは、どこが設置しているものになりますか。

(熊倉学校教育課長)

これは、校務支援システムの運営会社が設置しているものであります。それが分かるように修正します。

(雲尾委員長)

また、今後の推進方法のところの、操作や機能の改善された点というのが、これは操作の改善された点なのか、機能の改善された点なのか、どちらになりますか。

(熊倉学校教育課長)

6月に作業に入って、今およそ終わりそうと聞いているところなんですけれども、概してシステムの動作がスピードアップを図られるようにということでありましたので、ここは操作ではなくて、機能改善された点ということであると思います。先ほども言いましたように、動作が速くなるような更新をしたということが分かるように改めたいと思います。

(雲尾委員長)

それから、2ページ、第二指標の指標に対する評価の文章の中で一番最後、「理解は高い」で終わっているんですけど、「理解度」としたほうがよいと思います。

(熊倉学校教育課長)

そのように修正します。

(雲尾委員長)

他はよろしいですか。

では、1—(2)「開かれた学校づくり」についていかがでしょうか。

(星野委員)

表記等を含めて3点お願いいたします。

1点目は3ページの今後の方針の表記の仕方ですが、ほかのどのページを見ても箇条書きになっている表記はなく、このページだけが4項目列挙されているという形になっております。確かにぱっと見た目では分かりやすいですが、説明の脈絡というか、そういう部分を考えてどうなのかなと思いました。なので、私はほかの分野、領域と同じように脈絡のある記述でよいのかなと思います。

2点目は、昨年度もお聞きしたと思うんですけども、「地域に開かれた学校づくり」という文言に関わって、3種類ぐらい出てくると思います。もし意図がないのであれば、統一してもよいのかな、あるいはそのままでもよいのかなと思います。

3点目ですが、表記のことで、3ページの総合評価の文末なんですけど、「言える」は漢字ではなく、平仮名と思ったんですけど、どうでしょうか。

それから、4ページのほうでは、指標の説明のところにある何々を指標に設定し、というところはかぎ括弧があると分かりやすいのかなと思いました。

第一指標の令和3年度の実績値のところは88.0でしょうか。数値の確認をお願いします。

(星教育センター長)

1点目につきましては、他の項目とそろえる形で脈絡のある文章を検討したいと思いません。

2点目の「言える」につきましては、漢字か平仮名かを調べてまいりたいと思います。

もう一点、4ページにございました認知度等も含めた「指標に設定し」の前のところをかぎ括弧等を入れてそれが分かるようにしたいと思います。

(雲尾委員長)

今第一指標のところの令和3年度の実績値、88.0ですが、これを入れていただいたとして、88.0割る80.0って110.0にならないでしょうか。数字はどうなっていますか。

(星教育センター長)

この88.0につきましては、少数点以下の数字があるかもしれませんので、もう一回確認したいと思います。

(雲尾委員長)

先ほど3ページ下、今後の推進方法のところの「コミュニティ」と記載が誤っていますので、修正してください。

また、4つある箇条書きの3つ目について、これは教職員向けの広報活動なのか、市民向けなのかが不明であるし、他のものも学校に対してのものなのか、市民に対してのものなのかが分かりません。

(星教育センター長)

こちらについては、コミュニティ・スクールの目的や具体的な活動について、例えば広報さんじょうも含めた市民の皆さんの理解とか、そういったことも考えております。

(雲尾委員長)

誰に対する対象かといったときにも、順番入れ替えてまとめていただいたほうがいいと思うので、そのように書き直してください。

それでは、1—(3)「教職員の資質や指導力の向上」です。これについてはいかがでしょうか。

(星野委員)

1点お願いいたします。

6ページの第二指標の文言です。「外部講師を招いた研修回数」とありますが、まず初めに「外部講師」だけだと指標の説明とちよつとずれるかなと思います。教育センター指導主事も含めてあるんだろうと思いますが、その後に「外部講師」という言葉が出てきますので、外部講師に「等」を入れたほうがよいかと思いますし、研修回数ではなくて、研修した学校の割合なんじゃないかなと思います。

(星教育センター長)

ありがとうございます。第二指標の「外部講師」に「等」を入れることを考えたいと思います。

もう一点、御指摘のとおり、実績値のパーセンテージについては、これは確かに研修回数を達成した学校の割合に当たりますので、そのようにしたいと思います。

(雲尾委員長)

5ページについて、今後の推進方法の1行目ですが、「教育センター主催の研修を」で始まっているので、「今日的な課題や三条市の課題、教職員のニーズに即した内容の一層の改善を図る」だと何か合わないのです。「教育センター主催の研修について」とするといいのかなと思います。お願いします。

では、1—(4)「確かな学力の育成」について、これについていかがでしょうか。

(星野委員)

2点お願いいたします。

1点目は、今後の推進方法、7ページのところですが、また総合評価の枠に関わってもそうなのですが、昨年度の事後評価シートの記載とどの部分が変わったのかなと思い、確認しました。そうすると、今後の推進方法のところでは、1行目の評価を受けてのことだと思いますが、「国語の授業づくり研修」という文言が入ったと思いますし、総合評価のところでは下から2行目の「研修内容を見直しながら研修を計画・実施し」という文言が入ったのではないかなと思います。昨年度の「それらを今後も継続し」という部分が今の文言に修正されたのかなと読み取ったのですけれども、今年度はどの事業も終期を迎えます。私の願いとしては、大変厳しいことかもしれませんが、どの第一指標も第二指標も100%になるといいなという希望があります。特にこの評価のほうから打ち込んでいる国語の授業づくり研修などがあっても、総合評価の受け止めや、それを受けての今後の推進方法が昨年度とあまり変わりはないのかなと感じました。その辺りで終期を迎える令和4年度としてそれでよいのかなと思いました。

2点目は表記の問題ですが、そういうものがあるかどうか教えていただきたいんですが、8ページの指標に対する評価のところ、「全国平均偏差値」という文言がありますが、私の理解では全国の平均値を偏差値50とするというような解釈で今までいたので、こういう言葉がNRTで使われているのか教えてください。

(星教育センター長)

1点目について、委員御指摘のとおり、昨年度の実態から国語教科についてさらに強化しなければならないというセンターの総意がありまして、令和4年度に国語の研修講座を設けたという背景がございます。ただ、4年目を迎えての再総括した見方がこれでは足りないのではないかとということであれば、国語、算数、数学、英語を含めて学習習慣である

とか、学習全体に係る授業づくりであるとか、それらがどうであったかという記述もありますので、それらを含めた総合的な記述等を考えてみたいと思います。

2点目でございますが、おっしゃるとおり、NRTの捉え方の記述を確認いたしまして、「全国平均偏差値 50.0」という表記になるかどうか、考えたいと思います。

(雲尾委員長)

最初のところに関連しますが、正しい、正しくないであったり、表記の問題ということではなく、小学校も中学校も数値が去年少し良くなって、今年落ちているということで、結局目標をなかなか達成できないでいるということです。目標値を達成できていない部分の分析をどうして行って、どういうところが弱いからこうしようという、そういうことが見受けられないんです。とにかくやっていることを並べて、これを継続していきますというだけでは、同じように4年間、令和4年度で終わって、また立てたとしても結局目標値の辺りをずっとうろろうろして、なかなか上がっていかないのではないかというふうに思いますが、そういう弱い部分の分析等はどういうふうにされているか分かりますか。

(星教育センター長)

実際に、オーダーメイド訪問等で授業づくり、そして算数、数学等を重点教科にしている学校を見ますと、算数、数学のオーダーメイド訪問の声が多く、80%以上ございます。そういったところで教育センターでどのような方策を立て、実際に指導しているのか、そのようなことを、分析した中で記載したいと思っております。

(雲尾委員長)

1—(4)はよろしいですか。

では、1—(5)「豊かな心を育む心の教育と体験活動の充実」についていかがでしょうか。

(星野委員)

3点お願いいたします。

1点目は、9ページの総合評価の部分ですが、下の「成果指標としているソーシャルスキル～」の部分の文言を、その上の「いじめ認知件数云々」のところと入れ替えたらどうか、そのほうが文全体の流れとしてよいのかなと思います。不登校児童が大変増加しているということが問題になっていると思います。指標には関わりのない内容かもしれませんが、総合評価の中で、今それらの問題となっている現状をどのように捉えているかという部分があってもよいのかなと思っています。三条市の実態とか、あるいは県の実態とか、また全国の実態等があれば、そんなところを軽くというか、大ざっぱに触れながら、不登校が増えていることについての考えや思いを述べてもよいと思います。そんな意味で順番を変えたらどうかというふうに思いました。

2点目は、ポートフォリオシステムを有機的に作用させていく、このことは私も大事だと思いますし、そうする中で課題が見え、それを基にまた指導していくということを、どの学校でもされているかと思います。この文言なのですが、推進方法の一番下を見ると、私の受け止めでは上の文末から「Q-U 検査等実施後の分析を各校が確実に取り組めるように」で、「取り組める」となると、何か厳しい学校の実態があつてなかなかそこまでできていないというニュアンスに受け止められるかもしれないため、この「取り組めるように」を「取り組むように働きかけを行っていく」などに記載を直してはどうかと考えました。

10ページのそれぞれ主な構成事務事業の内容の記載のところでも「客観的に分析することで」という文言があります。そのところは必ず各学校が分析をしているはずなので、あまりニュアンスがぶれるようなことのない記載がよいのかなと思いました。

(熊倉学校教育課長)

1点目、総合評価の欄の記載の順序を変えるということ、そしてその実数の変化をどのように捉えているかを入れたらよいのではないかという御指摘でありました。順序を変えることも含めて捉えを入れるということは大切なことだと思いますが、ただ令和3年度の全国の数字がまだ分からない点等々もありますので、それも含めて捉えについてどのようにしたらいいか検討させていただきたいと思います。

2点目、ポートフォリオシステムについて、最後のところ、Q-U 検査等実施後の分析についてであります。2回の実施を各校にお願いしておりますけれども、それぞれ夏休み、冬休み等を活用して分析をしていただき、それを学校教育課へ報告するよう求めており、全ての学校が分析をしていますので、御指摘のところは考えたいと思います。

(雲尾委員長)

今後の推進方法のところの下から4行目の「今年度は」というのは、「令和4年度は」ということですね。

(熊倉学校教育課長)

そうです。

(雲尾委員長)

そのように修正していただきたいと思います。

では、1—(6)「健やかな体を育む健康教育、体力向上の取組の推進」についていかがでしょうか。

(星野委員)

4点お願いいたします。

1点目は、11ページの総合評価の文言の中に「小中共通の傾向として」というところがありますが、これはこの文脈からすると令和元年度からの傾向ということでしょうか。

2点目は、12 ページの実績値の数値が落ち込んできているということについてです。平成 30 年度を見ると、このときの種目の扱いが違ったのかもしれませんが、56.3%から31.2%、そして令和2年度は実施できなくて18.8%と見ると、約3分の1になっているとか、落ち込んでいると読み取ってしまったんですけども、この原因について、コロナウイルスの影響だけではないんだろうなと思います。そうしたときに、落ち込んでしまった原因をどのように考えて、受け止めているのかが分かるように総合評価に記載してもらいたいと思います。

3点目は、11 ページの今後の推進方法のところですが、県平均、全国平均を下回っている種目の実践の部分と1学校1取組の実施ということについての関連とか、落ち込んでいるところがはっきり分かっているので、特に中学校については、この終期を迎える4年度として、教育委員会として県平均、全国平均を下回っている種目の実践の部分と1学校1取組の部分のところが関連は学校任せでいいのかと思いました。それぞれ内容のところでもバランスの取れた体力の向上とうたっていますので、そういう面から考えてもぜひこの種目は取り入れてやってほしいというところを強くうたってもよいと思いました。

最後、4点目ですけども、12 ページの主な構成事務事業の内容の記載のところの1行目の最後のところ、「親子の触れ合いを含む家庭教育力」について、意味が分からなかったものでどのような意味なのか教えてください。

(熊倉学校教育課長)

1点目、「小中共通の傾向として」というところにつきましては、令和3年度の数値を基にして考えた結果、先ほど長座体前屈をカットしていただいていたということをお願いしましたが、ポイントにつきましては数年の傾向ということではなく、昨年度の傾向としてということ考えてところでございます。

2点目、かなり県平均を上回る種目数が減ってきているということについてですが、本当に体育が好きな子供と苦手意識のある子供で活動に差が出る、両極端になっていくという傾向が以前から指摘されてきている中で、またそれがコロナ禍の状況下の中で少し拍車がかかった部分があるのかなというふうに想像しているところであります。また、そういったところをさらに状況、理由等を考えまして、評価の部分に記載するように検討したいと思います。

3点目の全体として全国平均、県平均から落ち込んでいる部分につきましては、改めて各校に三条市の傾向ということでお知らせをした上で、1学校1取組を設定するに当たって、その傾向とかぶる学校もあるだろうし、学校によっては全体の傾向とはまた違うという場合もあると思いますので、一概にこちらのほうで指定するというのではなく、参考となるように情報提供のあり方を研究してまいりたいと思います。

4点目ですが、親子の触れ合いを含む家庭教育力の向上についてです。親子でお弁当作りを通して、その触れ合いを通して家庭教育力を増してほしいという意味合いとして、以前からの使われている文言をそのまま使わせていただきました。

(星野委員)

私は育むのかなと思っていたので、そういう意味ではないということを改めて読ませていただきました。含むというのは、一緒にするということですか。

(熊倉学校教育課長)

そうです。一緒に、そしてだんだんと一人で作るということです。子供の年齢が上がるにつれてだんだん保護者の手を離れて、一人で作っていく場面が増えていくことを期待しているところではありますが、初めは一緒に作ったり、一緒に買物に行ったりということを通して、親子が触れ合い、家庭教育力が向上していくところにつながってほしいと考えています。

(星野委員)

もう一点、12ページの第二指標の文言で32項目が県平均を超えるということなんですが、以下の指標に対する評価や、他のところでは全部「種目」という記載になっています。それは特に修正しなくてよろしいでしょうか。

(熊倉学校教育課長)

種目で統一させていただきます。

(雲尾委員長)

では、2-1「ICT、グローバル化に対応した教育の推進」についてはいかがでしょうか。

(星野委員)

3点お願いいたします。

1点目は、昨年度はたしかB評価だったと思いますが、それがA評価になって、すばらしいなと思っております。中でも総合評価のところの3行目に、昨年度はなかった文言だと思うんですが、「ICT教育推進講師」という文言があります。この存在というのは大変大きいというのは読ませていただいて感じましたが、このICT教育推進講師というのはいつ頃からどのぐらいの人数、配置だったのかを教えてください。

2点目は、ICT教育の中で、14ページの第一指標の指標に対する評価について、「わかりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりするために活用することができる」という部分がICT教育の本命かと思うのですが、それが6.6ポイント上がっています。その要因としてどんなことが考えられるのかなと思い、読ませていただくと、昨年度の報告書だとプログラミング教育研修というものもありましたが、それに加えて今年度は

授業実践研修あるいは事例研修というものが出来たのかなと読み取りました。また、今後の推進方法を見ると、令和4年度は加えて家庭学習推進、そして教材ソフトの整備という2点が加わったというふうに読み取ったのですが、それでよろしいでしょうか。

(熊倉学校教育課長)

1点目について、ICT教育推進講師につきましては、令和2年度に1名を採用し、令和3年度は3名を採用しました。定期的に3名で各学校を巡回するような形で指導に当たっております。

2点目について、第一指標の教職員の評価が高まってきているということですが、令和2年度の終わりに1人1台端末の整備が終わりまして、令和3年度はそれを触ってみる、慣れてみる、活用してみるということで取り組んできた1年でした。このように少しずつ数値が上がっているということについてはとてもうれしいことだと思います。御指摘のように授業実践研修や事例研修等で、例えばICTを活用して子供たちの考えを一度に集約をして、またそれを子供たちに返して、自分の考えと違うかなとか、そういう一目で分かる、そのような活用の仕方を実際にやってみることで、自信につながってきているのではないかと考えております。

家庭学習、それから効果的な教材提示につきましては、今年度また推進を図っていくところでありますけれども、それらについては教育センター長から説明させていただきます。

(星教育センター長)

今ほど課長のほうからお話があったように、令和4年度はタブレット端末を家庭に持ち帰るために、どんな教材や学習内容がいいかを教育センターが紹介しながら家庭学習での活用を進めているところです。また、デジタル教科書についてどのような活用方法があるかについても情報共有をしたいと思っているところです。

(雲尾委員長)

第一指標の指標に対する評価の中の「学習に対する児童生徒の興味・感心を高める」について、「感心」を「関心」に修正してください。

(星野委員)

13ページの文言です。今後の推進方法の2行目の中ほどに「子供」とありますが、これは「児童生徒」に修正してください。

(熊倉学校教育課長)

分かりました。

(雲尾委員長)

では、2—(2)「市民性を高める教育の推進」について、いかがでしょうか。

(星野委員)

まず、1点目ですが、科学教育推進事業の枠組みについて、科学ゼミナール、子どもの科学教室、科学・模型工作教室、わくわく科学フェスティバル等があるかと思います。これらを押さえていくと、今後の推進方法の書きぶりで4行目のところ、「『科学教育推進事業』については」とあり、開設する教育センターを会場としてとなっています。その後の文も見ていくと、わくわく科学フェスティバルについては体育文化会館を会場にしていることから、4行目のところの「科学教育センター」の後に「主な」を入れたらどうかと思います。

それから、関連して16ページの第二指標の指標に対する評価のところ、2行目から読んでいきますと、「『子どもの科学教室』、『科学・模型工作教室』、『わくわく科学フェスティバル』等、小学生を対象とした事業については」とあります。小学生が参加しているというふうに読み取れば問題ありませんが、小学生を対象としたということであると、わくわく科学フェスティバルというのは確か幼保小中、一般、誰でも参加できたと思いますので、この辺のつながりを考える必要があると感じました。

2点目ですが、今後の推進方法のところの確認です。一番最後に「学園運営協議会での報告やセンターでの」とあり、このセンターというのは教育センターのこのため、科学教育センターと思われたいと思いますが、教育センターの「教育」という文言を入れたらどうかと思いました。

それから、3点目ですが、科学教育推進事業につきましては、その内容について書かれています。その内容の記述で対象が小学生、中学生、おそらく分かれているものがあつたかと思いますが、和くぎ作り、それから小刀を使って物を作る、これは主に小学生、のこぎり、かんな云々のところ、砥石は、これは中学生というように、対象が分かるような文言を入れると、初めて見る人には分かりやすいと思いました。

最後にまた表記についてです。第一指標のところの「刃物・ものづくり教育」の次の「の」は第二指標と合わせると要らないと思いますので、「の」は削除してください。

(星教育センター長)

最初にお話しいただきました今後の推進方法について、「主な」を加えたいと思います。

それから、16ページで御指摘いただきました第二指標について、どこまで対象だったかを確認した上で修正したいと思います。

また16ページの第一指標については、小学生向けや中学生向けなど、初めて読む方が分かるように表記を考えたいと思います。

3点目に御指摘いただきました15ページの「センター」については、実は科学教育センターの広報や理科教育センターの広報もあることから、どれを想定しているか確認した

上で修正したいと思います。

(雲尾委員長)

それでは、2—(3)「社会で自立するための特別支援教育の充実」についていかがでしょうか。

(星野委員)

4点お願いいたします。

1点目は総合評価のことです。今年度は評価がAになりましたが、説明を聞いたところでは、それぞれの達成率が数字的には昨年度と変わらない中でBからAになりました、総合評価ですので、ほかの部分での成果があってA評価になったと思いますが、その理由を記載する必要があると思います。

2点目は、合理的配慮を個別の教育支援計画の中で記載する際に、本人の合意も必要ではなかったかということです。今後の推進方法のところでは1行目に「本人や保護者との合意形成」と書かれてあり、18ページの第一指標のところの説明の3行目では「合理的配慮の提供に係る記載（保護者との合意形成）」となって、ここでは本人についての記載がないので、本人を加える必要があるかを教えてください。

3点目は記載の仕方ですが、今後の推進方法の下から2行目、「理解を深めるように目指す」ではなくて、「理解を深めていくことを目指す」のほうが私はすっきりするような感じがいたします。

最後は18ページの第二指標の目標値等について、パーセンテージの数値の小数点以下が落ちていると思います。

(熊倉学校教育課長)

1点目です。評価について昨年度Bであったものが今年度Aになったということですが、ここは非常に迷ったところですが、確かに目標年度達成率につきましては昨年度、今年度同じような状況になっています。指標に対する評価のところ、合理的配慮についての記載内容が不十分な部分もあると思います。また昨年度の評価委員会で、評価はBではなくAでいいのではないかと御指摘もいただいていたこともあり、A評価とさせていただきます。そのことに御意見がありましたら、再度いただければと思います。

2点目の合理的配慮の記載について、今までも保護者の合意を得て決めていたところがあります。本年度の形式の中に保護者からサインをいただく箇所を設けたところですが、本人が記名する箇所がない中で、「本人」を入れるべきかを検討したいと思います。

3点目については、「深めていくことを目指す」に修正いたします。

4点目につきましても、小数点第一位まで数値を入れることで修正いたします。

(雲尾委員長)

A、B、Cの評価についてですが、これは他とのバランスもあるので何とも言いにくいものがありますが、3－(1)、22 ページ見てください。これはB評価ですが、第一指標が 89.2%、つまりマイナスの 10.8%、そして第二指標が 99.1%、マイナス 0.9%ということで、この2－(3)がA評価であると3－(1)はC評価ではないかとの判断になります。プラスの度合いが2－(3)では、目標値を2つとも達成しており、2つ合わせてプラス 11%となります。3－(1)では、目標値を2つとも達成しておらず、合わせてマイナス 11.7%になることから、3－(1)をC評価にするのならば、2－(3)はA評価でいいと思います。

また、17 ページの今後の方針について、「今後も教職員のニーズに応じた研修会を継続して実施していく」とありますが、これはその前の総合評価のところ「児童生徒及び保護者のニーズに応じた」とあることから、今後の推進方法について教職員のニーズに応じたものだけでいいのかということがあります。教職員のニーズという場合、教職員から要望があるということになります。しかし、そもそも教職員がそういう要望を出せるような専門性はそれほどないことから、しなければいけないということだと思います。要は知らないことを教えないといけないので、それをニーズと捉えていいのかどうかということです。教職員が必要とする内容ということのため、ニーズという形で出ているものではなく、教育委員会が設定した教職員が必要とする内容の研修を行っていくという趣旨の文章に修正していただきたいと思います。

(熊倉学校教育課長)

分かりました。研修会等のアンケートにもこういった内容のものを引き続き受けてみたいとか、あるいはこの次はこういうものを受けてみたいとかというような声を一部ではいただいています。御指摘のように、それを含めて教育委員会がこういう内容が必要だということを設定していくことになると思いますので、記載内容について検討したいと思います。

(雲尾委員長)

では、2－(4)についていかがでしょうか。

(星野委員)

感想も含めて2点お願いいたします。

1点目は、学びのマルシェの受講生について、昨年度も減ということで、だんだんだんと減ってきているとデータに示されています。ぜひ受講生が増えてほしいんですけども、そのためには教育委員会がされている見学会、体験会、学校訪問等での説明と合わせて、口コミが重要だと思います。口コミは、中学生は友達同士で、小学生は保護者の中で広がっていくと思います。

学びのマルシェの振り返りシートをこちらが書いてもなかなか保護者から見てもらえない実態があり、寂しいなと思うところがあります。見学会、体験会はいつでも参加できますので、ぜひ積極的に保護者に、また生徒さんにPRしてほしいと思いますし、口コミが広がるようないい方策がないかという感想を持っております。

2点目は、ジャンプアップ教室が令和3年度から開設されたということで、それについての実態の記載がありませんので、触れてもよいと思います。

(星教育センター長)

体験会、見学会や、それらの広報も含めて、どのようなことが有効なのかについて検討したいと思います。また振り返りシートについて、各先生方がコメントを書いてくださることが子供たちにとっては励みになっているということを知っておりますので、どのようにしたらもっと有効に活用できるのかを考えていきたいと思います。

ジャンプアップ教室の実態については、記載を考えたいと思います。

(雲尾委員長)

20 ページ、第二指標の指標説明について、「学習意欲の高い児童生徒に」は、「に」を「への」に直してもらおうと文章が通ると思います。

(星教育センター長)

先ほど星野委員から御指摘いただきました刃物、ものづくり関係の「市民性を高める教育の推進」の中で、わくわくフェスティバルの対象のことがございましたが、令和3年度は三条市立大学で学年を小学校5、6年生に限定しておりまして、例年であれば対象を広くとっていましたが、コロナウイルスの対策で人数を制限しての運用がございました。このときは小学生が対象でしたので、修正したいと思います。

(雲尾委員長)

以上、学校教育課所管分につきまして終了いたします。

・子育て支援課の所管分について、平岡子育て支援課長が説明

(雲尾委員長)

では、3—(1)「幼児教育内容の充実」についてございますでしょうか。

(星野委員)

主に記載のことについてですが、幾つかお伺いいたします。

1点目は、「コロナ禍」という言葉がいくつか出てきております。私も資料を読んでいると、新型コロナウイルス感染症対策となると本当に言いづらいと感じるのですが、「コロナ禍」はほかのページとの整合性としてどうかということがあります。

2点目は、22 ページの第二指標の指標に対する評価の文言の中で、2行目にある「発達

コーディネーター研修」について、これは「発達支援コーディネーター研修」だと思えますので、「支援」という言葉を加える必要があると思えます。

3点目は、21ページの総合評価あるいは今後の推進方法の中の「子ども達」という部分について、「子ども達」の「達」は取って、「子ども」だけでよいのかなと思えますが、文脈の中でおかしいようであれば考えていただきたいと思えます。

次に、総合評価の②の部分の2行目、「支援へのつなぎに取り組む」の「り」が抜けているのではないかなと思えます。

次に、これは質問ですが、22ページの第一指標の説明にある「国の『幼児期運動指針』」というのですが、幼児期というのは何歳から何歳までなのかということをお聞きしたいと思えます。三条市が設定している年少児は20分以上、年中児は25分以上、年長児は30分以上というものと全国の60分というものが結構差があると思えましたので、市の実態を考えてのことだと思えますが、幼児期というのは何歳から何歳までなのかを教えてくださいたいと思えます。

(平岡子育て支援課長)

いただいた4点の記載については、そのように修正を図りたいと考えております。

それから、最後御質問いただきました幼児期の範囲とはというところでございます。今国の幼児期運動指針を手元に持ってこなかったため、後ほど確認して、米印の最後のほうに付記させていただければと思えますので、よろしく願いいたします。

(雲尾委員長)

第二指標の指標に対する評価で「3.3 ポイントと大きく上昇している」を「3.3 ポイント増」に修正してください。また2つの指標を見て、総合評価は客観的に施策から見るとC評価になるところをB評価にするということであれば、その理由を総合評価に記載すべきだと思えます。総合評価が①から④の項目別になっているので、それぞれの項目がこうでしたということは分かりますが、総合評価が指標ではC評価になるべきところがB評価になるという、要するに総合評価の総合の部分がないんです。だから、CではなくBとする説明が①、②、③、④の前か後ろに入れていただかないと、B評価の根拠が分からないというところがあります。

では、3—(2)「幼保小連携の推進」についていかがでしょうか。

(星野委員)

3点お願いいたします。

1点目について、施策の基本方針の①のところには「きめ細かな支援を小学校等へ」とありますが、この「等」の意味というのは、おそらく特別支援学校等も含まれているのかなと思えました。そうであれば、令和3年度の評価における総合評価の①のところにも「小

学校等」の「等」が要るのかなと思います。

2点目は24ページの表記のことですが、実績値は73.3となっていますが、指標に対する評価のところでは78.3とあります。これは同じ数値になると思います。次に、「78,3%と目標達成率には届かなかった」とありますが、これは目標値のことではないでしょうか。また記載がコンマと誤っているので、これは小数点に修正してください。同じことが指標に対する評価の4行目の「96,5%」でもいえるので、修正してください。

3点目は、指標に対する評価で2行目のところ、「しかし、コロナ禍の中で」とありますが、「コロナ禍の中で」というところ、この表記は変わるにしても、その後の「例年通りの指標で目標値に至ることは難しく」という記載について、これは書かなくてもよいのかなと思います。

それから、同じく4行目の「1つ2つあてはまると回答したものを含む」とあり、最後に「となり目標値に迫っている」という記述がありますが、この表記自体がこの指標に対しては正対していない文言になるので、ここは「回答率となっている」で、「目標値に迫っている」という部分は要らないと思います。

最後ですが、23ページの総合評価の2行目、ここは「児童」じゃなくて「子ども」のほうが良いと思います。

(平岡子育て支援課長)

それぞれ字句等の訂正については大変失礼いたしました。修正を加えさせていただければと考えております。

それから、1点、指標に対する評価の中で73.3と78.3、これは確認させていただきたいと思います。おそらく誤植ですので、どちらかで統一させていただきたいと思いますし、中の記述につきましても、御指摘いただいた部分も含めて修正をかけさせていただきたいと考えております。

(雲尾委員長)

今の第一指標で「子どもが小学校入学を楽しみにするようになった」が94.0と高かったというのは分かりますが、結局あと3つがどういう項目で、その選択率がどうだったか、つまりこういう選択率だったから、この項目はやっぱりこういう状況下では答えにくいだろう、上がらないだろうねといった、そういう説明が必要だと思います。これもやっぱり、75%なのに総合評価がBであるということの説明がないので、そういったようなことがポイントとなってちゃんと総合評価のところにはこれはBなんですよということを説明していただきたいなと思います。

また、総合評価の②の「交流活動は」で始まっているので、「交流活動は、コロナ禍により交流活動が中止した」の2つ目の「交流活動が」は削除してください。

では、3—(3)「家庭への支援の充実」についていかがでございましょうか。

(星野委員)

2点お願いいたします。

1点目は、第二指標のところに出てくる指標の説明にある2,500件という内訳についてですが、令和4年度にそれを目指すので、ここには三条市在住の、あるいは三条市勤務の子育て世代の親御さんの世帯数が含まれているのかなと思いますし、併せてここには「LINEを活用した」というのが総合評価にありますけども、このLINEの部分も件数に入っているのかについてお聞かせください。

2点目は、今ほどLINEの活用を開始したということですので、その評価もこの総合評価のところのどこかに触れられるとよいのかなと思います。

もう一点、今後の推進方法のところで、「子育て支援情報の周知や親同士の交流、相談事業の充実を図っていく」ということで、これもやはり昨年度と変わりはないかと思えます。施設利用者数の増加あるいは相談件数の2,500件に到達するのはこれだけの表記だと来年度は厳しいんじゃないかなと思いますが、LINE等の新しく始められた部分の活用を更に図るとか、そのような文言も付記したらどうかと思えます。

以上です。

(平岡子育て支援課長)

2,500件につきましてはあくまでも相談件数ということで、施設を利用して相談に来ていただいた件数をカウントしたところでございます。市内外問わずというものとなっております。

それから、総合評価の中で実はもう少し力を入れて書けばよかったのかなと反省しておりますが、LINEを活用した子どもなんでも相談について、昨年秋に開始しましてからもう既に200件弱の登録をいただいているところでございます。そうしたことを踏まえて、私どもも本意としては力を入れてまいりたいと考えておりますので、そういう思いからすれば今後の推進方法についての記述も変わってくるものとも考えております。それらも含めて総合評価の後段部分、それから推進方法の部分について記載方法を少し変えさせていただければと考えております。

(雲尾委員長)

そうですね。よろしくお願いたします。

・教育総務課の所管分について、野水教育総務課長が説明

(雲尾委員長)

では、これにつきまして御質問、御意見等ありましたらお願いいたします。

総合評価のところや、次の今後の方針のところでもありますが、「児童生徒が」ではなく、「児童生徒の汚い、臭いといった学校のトイレに対する印象」に修正してください。またこの文章は、「行きやすい環境を整えるために、学校トイレの改修工事に着手するため」と、「ため」が2つ続くので、改善を図ってください。

第二指標で、指標に対する評価で、これは「トイレ改修工事の実施設計が完了した」と事実が書いてありますが、指標に対する評価として、これは評価になっていないのではありませんか。

(野水教育総務課長)

100%というところに対して0%という実績で、総合評価になっています。

(雲尾委員長)

要は令和4年度に100%を達成するのだけれども、令和3年度の段階での指標に対する評価ですので、令和3年度は0%であるんですね。

(野水教育総務課長)

はい。

(雲尾委員長)

達成率も0ですね。

(野水教育総務課長)

はい。

(雲尾委員長)

そのときに、これはトイレ改修工事の実施設計が令和3年度中に全何校について完了したという意味ですか。

(野水教育総務課長)

はい。

(雲尾委員長)

これだけだとあまりに分かりにくいですので、要するに令和4年度に向けての進捗状況として令和3年度はこうであったというようなことをもう少し分かるように書いていただきたいと思います。

また、その下の主な構成事務事業の中で「学校トイレ内の」とありますが、ここは「学校内トイレ」に修正してください。

(星野委員)

1点お願いいたします。

第二指標の設定の経緯があった方がいいと思います。おそらく学校現場から施設改善をはじめ、様々な要望が上がっているのだと思います。そのような中でも特にトイレの改修、

洋式化についての声はすごく高く、令和4年度はこれに取り組むということだろうと思いますが、学校現場からの要望があった中で重要度から考えた場合、子供たちの学びを保障する快適な学習環境、教育環境を整えるためにはトイレの洋式化が大事と考え、指標に設定したなどの記述があるといいと思います。

(野水教育総務課長)

少し唐突な設定である感は否めない表現になってございまして、大変恐縮でございます。星野委員からお話がありましたが、こちらについてはまだほとんどの学校で洋式化が進んでおらず、環境が整わない中で、利用をあえて我慢する子供たちがいるというような実態であるとか、また数少ない洋式トイレに利用が集中して、休み時間内に用を足すことができない生徒がおり、次の始業に間に合わず、授業の時間を繰り下げるといったような実態があるという声を受けまして、この度このような改修に全市的に取り組ませていただくこととなったものでございます。そういった部分の背景も加味してこの設定指標の趣旨をより明確化させていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

そのほかよろしいですか。ありがとうございました。

では、議事のほうを終了いたします。

5 次回教育事務点検評価委員会の日程について

野水教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定する。

〔日時〕 令和4年8月5日（金）午後1時30分

〔会場〕 三条市役所栄庁舎 201 会議室

6 閉会宣言 午後4時11分